



◀台湾のスーパーで味噌汁を作って実演販売を行う野間口孝二さん。商品が女性の気持ちをつかむと、売り上げにつながる。

▼中国の店頭に並ぶヒシクの醤油。ラベルには日本地図が描かれていて、中でも鹿児島は赤色でマークされている。



▲「商談会は1日15件して、1件まとまればいい方。でも地道な活動は欠かせません」と話す営業部次長の野間口孝二さん



食文化の異なる中国で味噌汁を作り実演販売。3年目にシェアが広がる

藤安醸造株式会社

伝統食品の味噌・醤油を作っている140年以上の歴史を誇る藤安醸造。アメリカへの味噌の輸出は20年近くになるといふ。きっかけはロサンゼルスの日系スーパーの社長から、「故郷の味が欲しい」と持ちかけられたことだった。数量は多くないものの、今でも輸出はコンスタントに続いている。2010年には台湾を足掛かりとして香港や上海へも展開。「日本の人口が目に見えて減ってきてい

ることに危機感を募らせました。そこで5年ほど前、「これからは東南アジアを中心に開拓しよう」と決めたのです。」と話す営業部次長の野間口孝二さん。アメリカとは違い、中国では現地の人々が対象だ。食文化の異なる外国では、まず日本の味噌・醤油を知ってもらわなければならない。野間口さんは連日、店頭で味噌汁やおかゆを作り、試食してもらったところ大

好評。市場開拓は小さな積み重ねが必要だと実感している。上海は、現地の食品問屋との出会いで大きく拓けた。「2年間はぼちぼちでしたが、中国の商習慣にも慣れてきた3年目、急に注文数が増えました。時間はかかりますが、相手と信頼関係を築くことが大切です。こちらの努力がわかれば、力を貸してくれますよ」。海外の売り上げを年商の1割まで伸ばしたいと今も奮闘中だ。

■藤安醸造株式会社

住所／鹿児島市谷山港2-1-10
電話／099-261-5151
創業／明治3年
代表者／藤安秀一
事業内容／みそ、しょうゆ、食酢、ソース、調味料加工食品の製造および販売
URL／<http://www.hishiku.co.jp>



◀祭りや物産展への出店は、阿久根の魅力を知ってもらう機会。商品の見せ方や接客など他者の研究も欠かせない。

▼今年初めて開催された「阿久根はな・HANA・華まつり」は市民による花づくりからスタート。大盛況だった。



▲ご当地キャラの「阿っくん」とテレビ局へ。山形屋で開催される阿久根物産展のキャンペーンを行った。

商工・観光関連事務局を市の主導で一本化。全国初の試みに挑む

阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」

これまで、観光協会、特産品協会、飲食店組合、旅行組合の4団体がそれぞれ観光案内や商工関連業務を行っていたものを一本化し、効率の良い情報収集や情報発信、観光案内を行うため、市役所主導のもとで、今年4月に阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」が発足した。「阿久根まちの駅」が発足した。例のない試みとして、全国から注目を浴びている。今まで諸団体からの委託で商工会議所職員が分担業務していた運営事

務も、専属スタッフが担当。土日曜、祝日(年末年始を除く)も9～18時で問い合わせが可能になるなど、使い勝手の良い商工・観光案内が可能になった。現在は、県内外への観光・特産品等のPRを基本とし、通り会を挙げて行われた「阿久根はな・HANA・華まつり」への参加協力など多岐に渡るが、試行錯誤の1年目でまだまだ課題も多い。またいざれ補助金がなくなるため、収益事業への取り

組みも急務とされている。そのためには現在の任意団体を法人化する必要があり、今年中にベストな形を見つけないと模索しているところだ。観光案内・宣伝に携わる職員の育成も急がれている。安田暢子理事長は、「商工会議所や市役所との連携強化が第一歩。いろいろな団体と横に手をつないで、一人でも多くの方に阿久根の魅力を伝えたい」と話す。

■阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」

本社／阿久根市塩鶴町2-16
電話／0996-72-3646
設立／平成25年4月
代表者／安田暢子
活動内容／阿久根市の商工・観光関連の情報収集と情報発信、観光案内など
Facebook／阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」